

## ■ 国際交流Q & A

Q 1 : 外国からの留学生と一対一交流をしたいと思っているのですが、そのための手続きはどうすればいいのでしょうか。

交流のご希望があれば、三井V-Net事務局(以下、事務局という)に連絡して下さい。各大学担当より手続き方法等をご案内致します。三井V-Netのボランティアが交流しているのは、関東地区では東大(本郷、駒場、柏)、千葉大、横浜国大、駒澤大、埼玉大、一橋大の留学生です。尚、複数の大学に登録することも可能です。

Q 2 : 交流相手の留学生の性別、年齢、専攻分野、居住場所など、当方の希望は受け入れていただけるのでしょうか。

ご希望を登録票に記入願ひ、これが事務局を経由して各大学の担当窓口へ提出されます。交流申込者と留学生の組み合わせは双方の交流内容に関する希望などをもとに決定されます。しかしながら、希望される大学にも依りますが、ご希望がある程度制約されることもあります。学生とお会いした結果、どうしても交流することが難しいと思われる場合は事務局に相談してください。

Q 3 : 事務局に交流希望を申し入れてから、組み合わせが決まるまで、どのくらいの時間がかかりますか。また、組み合わせの決定や交流開始に季節性はあるのでしょうか。

交流の意思表示から組み合わせが決まるまで、数週間から数ヶ月、時期や大学により相当異なります。また、季節性ですが、あえて言えば、新学期が始まる4、5月か、後期から入学する留学生もいますから、9、10月が多いようです。いずれにせよ、交流の意思表示はなるべく早めにしてください。

Q 4 : 最初に、学生とはどのように引き合わせられるのでしょうか。

事務局が大学の担当窓口と打ち合わせの上、初対面に立ち会います。また、大学によっては集団としての紹介もありますので、この点は事務局からの指示に従って対応してください。

Q 5 : 留学生との交流の頻度はどのくらいが適当なのでしょうか。

組み合わせが決まれば、交流の頻度は相手の学生の希望を勘案し、話し合いで決めます。学生の留学目的や、例えば、論文作成、アルバイト、旅行など、個々の学生の生活状況、活動状況などから判断して、あまり無理のない頻度にした方がいいでしょう。日本人との会話そのものが目的の場合や、日本語能力試験の合格等を目指した日本語学習などの場合は、週1回程度の交流を継続させるのが適当でしょう。もちろん互いの事情で頻度を変えることはできます。

Q 5 - 2 : 留学生との交流は土・日のみでも可能でしょうか。

大学にもよりますが、留学生の多くは平日の交流を希望していますので、平日に活動できることが望ましいと考えます。

Q 6 : 交流の方法には、どのようなものがありますか。

特別の決まりはありません。これも、各ボランティアの自由です。しかし、例えば日本や学生の母国のお国自慢、衣食住の風俗・習慣について日本語で会話することなどがお互いの親しさを深めるのに有効です。

また、漢字使用圏の学生なら、一緒に決めた図書を読むことも効果的です。この場合、図書は学生と一緒に書籍店や図書館を往訪のうえ、学生の興味や実力に適ったものを選ぶことが大切です。

さらに、相手が学問追求型の学生なら、日本語論文の添削をするなど勉学に付き合うことも求められることがあるかも知れません。

日本文化を体験してもらうために、名所旧跡訪問や蛭狩り、花火見物なども行われていますが、それぞれに精通したボランティアがいますから、相談してみてください。歌舞伎、文楽、能など古典芸能の鑑賞には相応の費用がかかります。博物館、美術館、音楽会などは外国人無料招待の機会もあります。

Q 7 : 交流の場所はどんなところが適当でしょうか。

加入した大学部会世話人あるいは会員及び事務局などにご相談下さい。

Q 8 : 学生との対話は日本語ですか。それ以外の言葉ではいけませんか。

対話は、日本語が原則です。ただし、留学生の日本語能力によっては、最初のうちは英語か学生の母国語を交える会話となる場合もあります。また、最近はEメールを利用した交流も盛んになっています。

Q 9 : ボランティアにとってパソコンや携帯電話は必要でしょうか。

最近の留学生はスマホ一台でPC、携帯の役目を果たさせています。会員でスマホを使用される方はスマホにて諸々連絡を取り合うことでよろしいかと思いますが、スマホは利用していなくても、PC、携帯電話のいずれかは各種連絡を取る上で必需品です。

Q 10 : 待ち合わせなどで何か交流での問題は起こっていませんか。

几帳面な日本人と、おおらかな学生とのギャップから、待ち合わせなどの面でかなりの問題が報告されています。この問題を減らすため、まず、待ち合わせ場所だけはお互いが分かりやすいところを明確に決めてください。

また、時間については、外国人はかなり大まかな人が多く、悪気はなくてもドタキャンすら珍しくありません。ですから、携帯電話をもっていると便利なのです。一言の連絡もなく帰国したり交流が連絡が途絶えたケースがあります。これだけ親切にしてあげたのに反応がない、感謝の態度がない、何を望んでいるのか分からないなどコミュニケーションの難しさも加わり日本人の感覚と異なることがあります。いずれにせよ、交流には忍耐が求められます。

Q 11 : お茶代や食事代の負担はどうすればいいでしょうか。

特に決まりはありませんが「割り勘」が原則です。イベントの内容によりますが、歌舞伎鑑賞等の古典芸能は留学生に有料であることを説明し鑑賞希望の有無を確認しますので、チケット代は負担させています。なお、部会のイベント等とは別に個人的に各種見学等に誘った場合は、会員が負担しているケースが多いようです。

Q 12 : 日本語を勉強したい学生にはどんな教材が適切でしょうか。

留学目的や個人レベルによってかなり異なりますので、文末の付表にまとめます。

Q 13 : 学生から借室契約などの保証人になってほしいと頼まれたらどうすればよいでしょうか。

そのようなケースには通常、大学の担当窓口などが対応しますから、ボランティア個人が保証人になることは求められません。万一求められましたらきちんと断わり、大学の担当窓口にご相談するよう指示して下さい。医療費支払いの保証についても同様です。

Q14：奨学金斡旋の依頼があったらどうしましょう。

通常、各大学の担当窓口が対応していますので、留学生より奨学金等の申し出がありましたら、大学の担当窓口にご相談するよう指示して下さい。

留学生の参考として、次のような団体があります。

- ①[独立行政法人日本学生支援機構](#) [日本留学奨励金](#)
- ②[日本留学総合ガイド](#) [外務省](#)
- ③[\(財\)日本国際教育支援協会](#)

Q15：学生から就職先斡旋の依頼があったらどうしましょう。

留学生には大学の留学生担当窓口あるいは就職斡旋窓口にご相談するよう指導願います。

ボランティア会員個人の縁故やコネクション情報等、留学生に過大な期待を持たせるような発言は誤解を招きますので注意しましょう。

留学生の就職関連の参考として、次のような団体があります。

- ①[独立行政法人日本学生支援機構](#) [留学生就職情報](#)
- ②[大阪外国人雇用サービスセンター](#)
- ③[日本留学総合サイト](#)
- ④[学士会・企画課](#)
- ⑤[留学生就職支援ネットNAP](#)

Q16：ボランティアが複数の留学生と交流する場合、同じ場で交流していいでしょうか。

事情にもよりますが、原則として一対一で交流となりますが、留学生が友人同士等と一緒に交流することを希望された場合などは臨機応変な対応をお願いします。

Q17：政治や宗教を対話のテーマにすることはご法度でしょうか。

こうしたテーマを避けて通る方、積極的に対応される方などボランティアによってさまざまですが、ご法度とまで決めつけることなく、臨機応変に判断すべきでしょう。

Q18：留学生の食べ物には留意する必要がありますか。

食べ物に留意する必要は大いにあります。相手の宗教上の決まり、体質や健康上など個人的な事情による制約があるかもしれませんので、交流ボランティアが確認してください。

Q19：学生との交流がうまくいかなかったり、問題が生じた場合、相談するところはありますか。

そのような場合は、一人で悩まないで、事務局に早めに相談してください。

Q20：学生との交流の経過や結果をどこかに報告する義務があるのでしょうか。

交流留学生と連絡が取れない、連絡しても回答がない等の場合及び会員の方の健康その他の都合で交流が継続困難な場合は事務局に早目に連絡してください。なお、交流中の経過及び結果は部会例会の中で発表してもらおう大学部会もありますし、特に発表を要しない大学部会もあります。交流状況を事務局に報告する必要はありませんが、不都合等があれば遠慮なく申し出下さい。

Q 2 1 : 交流で負担となることがありますか。

無償ボランティアですから交流に関わる費用は皆様ボランティアのご好意に依存しています。交通費、喫茶代その他、食事や催しに招待すれば相応の費用がかかります。無理をされない範囲での交流をお勧めいたします。

費用以外に負担を感じられた方では、就職活動の応援に期待を持たれたけれど実現できなかった、留学生が交流に何を望んでいるのか分からなかった等のご意見があります。

Q 2 2 : 交流して良かったと言われることがありますか。

多数のボランティアの皆様から交流して良かったという以下のような感想を頂いています。

- ①留学生は大変優秀なので帰国後は政治や経済で国を担う人材となり日本ファンとして 影響力を発揮してくれると思う。
- ②仮に二国間に政治問題があっても、まずは個人同士から理解を深め信頼し合い、草の根外交をしたという充実感を持った。
- ③留学生の勉学を助けていた自分が逆に教えられることがあった。
- ④若い留学生との交流で定年後の活力維持・脳の活性化に役立った。
- ⑤留学生に日本の伝統や文化を教える積りが自分自身の改めでの勉強の機会となった。
- ⑥ビジネスで赴任した国への恩返しが出来た。

等の感想が届いています。

>> 《付表》日本語学習のための教材・資料

## ■ 《付表》日本語学習のための教材・資料

一対一交流において、留学生から求められる教材や資料は、留学生の語学レベルと、学習目的を確認されてから選ばれるのが良いと考えられます。

1. 留学生の語学レベルの確認方法は、個々人でも判断できますが、以下のホームページのPDF、P.56~P.60に「留学生本人に質問する100項目」が掲載されていますので、留学生への質問結果を踏まえて判断材料の参考にする事もできます。

[http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/about/pub-pdf/J of ECIS/Vol6/ECIS no6.pdf](http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/about/pub-pdf/J%20of%20ECIS/Vol6/ECIS%20no6.pdf) (PDFのP.56~P.60が該当資料)

2. 初級から上級までの最も基本的な学習書を以下に列記します。

レベル	題名	出版社
初級	『みんなの日本語 初級1』『—— 初級2』	スリーエーネットワーク
初級	『Japanese for busy people』	国際日本語普及協会
初中級	『日本語学習のための日本』	国際交流研究所
中級	『新日本語の中級』文法解説書 英語版	海外技術者研修協会 スリーエーネットワーク
中級	『日本語 5つの扉』	凡人社
上級	『日本語上級読解』	アルク
上級	『上級日本語』東京外国語大学留学生日本語教育センター	凡人社

(凡人社<http://www.bonjinsha.com/>)

(紀伊国屋書店<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>)

上記2店は専門店／総合店として、店頭販売とネット販売をしています。

### 3. 日本語の資格試験について

2010年7月より、今までの4段階の資格試験(JLPT)が改訂されました。新しい制度では、国際交流基金と、日本国際教育支援協会により、5つのランクが設定され、難易度測定段階の難しいほうから、「N1」「N2」「N3」「N4」「N5」として、認定されます。また、この試験の為に公式出版物としては、『新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集』として N1,N2,N3編の一冊と、N4,N5編の一冊があります。試験月は毎年7月と12月です。得点方法やその他、詳しくは以下のホームページを検索ください。

日本語能力試験(JLPT) <http://www.jlpt.jp/>